



市民活動の新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地ですそ野を広げている。ファイザー製薬ではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれず、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2001年度の助成対象となった各プロジェクト(左頁参照)を中心に、9回連続(今回は8回目)でレポートする。



ホームレス者に対するイメージと実像のギャップは、思った以上に深い。調査によって得られたさまざまなデータがそれを物語る(写真右)。健康相談会の様子。2~3か月に1度、札幌市民会館の一室を借りて実施している(写真左)

健康相談会や生活習慣実態調査を行い 医学的見地からホームレス者を支援する

北海道のホームレス者の健康支援を行う医師・医学生の手記

札幌市ホームレス者の健康支援と実態調査(北海道)

「医学的にどうこう、といった理屈を超え、自分たちができることを通じて誰もが健康で幸せになれる社会づくりの手助けがしたかったのです」

北海道大学大学院医学研究科の講師である小橋元さんが「北海道のホームレス者の健康支援を行う医師・医学生の手記」を立ち上げたのは、このような思いからだった。

平成11年の夏ごろから、札幌でホームレス者が急増。北海道大学教育学部のサークル「北海道の労働と福祉を考える会」が、2~3か月に1度の割合で炊き出しなどの生活支援を始めた。これに関心をもった何人かの医師・医学生たちも、何か支援ができないだろうかと考え、炊き出し会場の横で健康相談会を実施。問診や相談、血圧測定、尿検査などを行い、ホームレス者の健康に関する現状を見極めて、状態の向上に努めている。

医学的見地からの支援の強みは、重病人が見つかった場合に入院や生活保護申請などをスムーズに行えたこと。医師の診断という客観性は、極めて強い説得力を持つ。

「市販の検査試薬で調べても、血糖値がかなり高いことが推定される人がいました。尿糖値データとともに『この人は糖尿病の疑いが強い』という手紙を添えたことで、比較的早く入院することができたのです」

健康相談会の回数を重ねてくるにつれ、小橋さんたちは興味深いことに気がついた。高血圧や糖尿病といった生活習慣病を患っているホームレス者が多いのである。この結果と健康状態との関連を明らかにするために彼らの生活習慣の実態も調査。同時に、一般市民へのホームレス者に対する意識調査も実施。そのデータをまとめ、イメージと実像のギャップを浮き彫りにした。

「糖尿病は、ぜいたく病などと言われる一般市民への意識調査でも『ホームレス者か』もつとまかりつらいであろう」というイメージを抱いていることがわかりました。しかし、十分でない栄養摂取、不規則な生活、精神的・身体的ストレスなど、ホームレス者が生活習慣病を患う理由は医学的にも十分あります。こういった実像をふまえた対応をしていくことを考えています」

具体的には、札幌市中央区民台帳から約1000人を抽出、ホームレス者への認識と受容度を調査。得られたデータをもとに、保健所などの行政機関との連携も含めて、今後の取り組みの方向性を探っていくという。

また、こういった活動に対する医療従事者の関わり方についても、今後活動に携わる医学生・看護学生を他地域の支援団体に派遣して情報交換をしながら模索していく計画である。

障害者とその家族の生活を支援する

24時間体制のレスパイトサービス

「レスパイト」

障害者の地域生活を支える民間レスパイト事業(愛知県)

**2001年度
助成対象プロジェクトの
団体名・活動内容・
主な活動地域**

新規助成

1	札幌市ホームレス者の健康支援と実態調査 北海道のホームレス者の健康支援を行う医師・医学生会の会(札幌市)
2	障害児・者とその家族のための生活支援サービス促進事業 サポート・ハウスぱお(埼玉県蓮田市)
3	暴力被害女性支援「自然派レストラン・喫茶Saya-Saya」事業 地域生活支援ネットワーク・女性ネットSaya-Saya(東京都荒川区)
4	薬物依存症の青少年のためのデイケア事業 特定非営利活動法人セルフ・サポート研究所(東京都江東区)
5	障害児・者に対するダンスワークショップ 特定非営利活動法人ポーロウニア協会(東京都江東区)
6	DV被害女性及び同伴子の緊急一時保護事業 FTCシェルター(東京都)
7	ひきこもりサポートプロジェクト 日本アダルトチルドレン協会(JACA)(東京都世田谷区)
8	山山介護支援事業 特定非営利活動法人自立支援センターふるさと(東京都台東区)
9	思春期の自立と精神保健を育むピアサポート事業 ティーンズポスト(東京都町田市)
10	不登校の子ども達のための六浦共同生活舎生活体験合宿 特定非営利活動法人コロフミアカデミー(神奈川県横浜市)
11	横浜寿町「さなぎの家」 なんでもSOS班 特定非営利活動法人さなぎ達(神奈川県横浜市)
12	障害者の地域生活を支える民間レスパイト事業 コンビニの会(愛知県名古屋市)
13	釜ヶ崎地域における「終わりなき」生活支援事業 木曜夜まわりの会(大阪府大阪市)
14	拘置所に収監中の薬物依存者へのインタベンション・プログラム フリーダム(大阪府大阪市)
15	日本在住外国人のための医療支援事業 社団法人まちづくり国際交流センター(奈良県橿原市)
16	不登校の子どもたちの健康と体力づくりを考える 神戸フリースクール(兵庫県神戸市)
17	高機能広汎性発達障害の子ども達のサポート事業 岡山県高機能広汎性発達障害児・者の親の会(岡山県岡山市)
18	10代の生と性を考える ドラマスクールin三原 みほらおやこ劇場(広島県三原市)

継続助成

19	ショッピングセンターの機能を生かした福祉サービス 特定非営利活動法人自立支援センターファイティ(青森県上北郡下田町)
20	チャイルドライン千葉 「子ども電話」 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター(千葉県千葉市)
21	川崎ホームレス保健プロジェクト 「冬を生きぬき、春を呼びこめ」 川崎水曜・土曜の会(神奈川県川崎市)
22	中等教育を補う「コミュニティ・スクール」の実現をめざして 特定非営利活動法人リベラヒューマンサポート(静岡県三島市)
23	不登校児童・生徒の支援に係わるセミナー開催事業 特定非営利活動法人プレーンヒューマニティ(兵庫県西宮市)
24	精神障害者のための「ついで」事業の普及充実活動 障害者を持ちながらも自立と納得よく社会参加を目指すふれあいセンター(沖縄県那覇市)



第2コンビニハウスに併設されているデイサービスの施設で楽しそうにくつろく障害者たち(写真上)。「どんなに重い障害者でも、他ではできないケアがきっかけでればより豊かな人生が送れるはず」が持論の今治信一郎さん(左の写真、右)の介助で入浴する障害者。どうしても固くなりがちな体はもちろん、気分的にもリラックスできる入浴は重要な介助の一つだ

大川美知子さんが「重度重複障害者の地域生活を考える会」をつくって定期的に学習会を始めたのは94年だった。地域の施設に通っている重度の障害者が、親の都合や病気で通所できないことが多くある。それは、親の介助がなければ、通常の生活が困難になる障害者がかなりいるからだ。そうした現実を前にして大川さんは、それなら親の代わりがいればいいのか、それなら親の都合が悪いときは誰かがケアすればいいのではないかと考えたのが始まりだった。

しかし親の都合は昼間ばかりにあるわけではない。親戚に不幸があれば夜になるとは家をあけなければならぬときもある。そうなる24時間態勢をとらなければならぬ。障害者とその家族に、いつでも手軽にサービスを提供しようということから、名前もコンビニの会にしようということになった。

第1施設の開所は、96年。大川さんの考えに賛同してくれた人が、一戸建ての住居を5年間無料で貸してくれることになった。送迎、昼間のケア、宿泊ケアなど24時間受け付け、利用の理由は一切問わない。「レスパイトサービス

しかし親の都合は昼間ばかりにあるわけではない。親戚に不幸があれば夜になるとは家をあけなければならぬときもある。そうなる24時間態勢をとらなければならぬ。障害者とその家族に、いつでも手軽にサービスを提供しようということから、名前もコンビニの会にしようということになった。

第1施設の開所は、96年。大川さんの考えに賛同してくれた人が、一戸建ての住居を5年間無料で貸してくれることになった。送迎、昼間のケア、宿泊ケアなど24時間受け付け、利用の理由は一切問わない。「レスパイトサービス

スというのは障害者とその家族の生活を支援することだから、家族がゆつくり休みたい、旅行がしたいというような理由であつてもかまわない」というのが大川さんの基本理念である。

昨年の12月、150坪の土地に三階建ての第2施設が開所した。会員が増えて最初の施設だけでは対応しきれなくなつたからである。総勢千数人で始めたのが、今では併設するデイサービス施設も含めて職員16人、登録ボランティアは130人にも及ぶ。

コンビニの会では、脱衣室を含めてお風呂はゆつたりとしたスペースに改装している。「体が緊張して自分の思い通りに動かない障害者をお風呂に入れるのは介護でも一番大変です。重労働なんです。ここでお風呂に入れるというのは親も助かるし、何より障害者本人が心身ともにリラックスできるんです」と語る大川さんには、実は31歳になる障害をもつ娘さんがいて、事務局のコーディネーターを務めている。



大川さん(右)と学生時代からボランティアとして活躍していた今治さん。コンビニハウスでは欠かせないスタッフの一人だ

**【ファイザープログラム】
心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援
2002年度 募集要項**

1. 募集期間：2002年7月1日～8月13日
2. 助成金：1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間：2003年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野：特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
→おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身のケアを支援する活動
→外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
 - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
→身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先：ファイザー製薬株式会社 企業文化部 03-3344-7524
応募要項はホームページからダウンロードできます <http://www.pfizer.co.jp>

「重い障害があつても、ケアの質を高めれば障害者が望んでいることではないことはない」と娘がいうんです。確かにレスパイトをやつていて見えてくるものがたくさんあります。お風呂に入つてご飯を食べて泊まれるというだけでなく、そこで障害者とその家族が一人の人間としてより豊かな人生を送れるように介護・介助の質を高めながら、障害者が安心してくつろげるグループホームをつくるのが今の課題です」

大川さんの頭の中にはすでに次の写真ができてあがつているようだ。